日本語のすぐれた特徴

日本語を調べてみますと、外国語には全くないいろいろな特徴がございます。

その第一は「てにをは」です。これは言葉と言葉との関係を明確に示すものであって、これによって文意が非常に正確に表現出来る。例えば英語で言えば I とか my とか me とかというようにいわゆる語形変化によって区別するところを、「私は」、「私の」、「私に」あるいは「私を」というように、「てにをは」によってこれを明確に示すことが出来る。そしてこれは内容を持たない全く抽象的な言葉であります。このような形式だけを表わす言葉は、よその国の言葉にはほとんど見ることが出来ません。強いて言えば英語の前置詞がこれに当たるでしょうが、これは我が国の「てにをは」とはかなり異なっております。「てにをは」は全く思想を持たない、全く内容を持たない、純然たる形式を示す言葉です。こういう言葉を発明した日本人の能力というものは、私は大変にすばらしいものではないかと考えております。

それからもう一つ大きな特徴は、漢語と和語、……わが国の古い言葉、つまり大和言葉と、本来は中国語である漢語とが、混然一体となって使われていることであります。これは、同じ中国語の影響を受けている韓国とは全く事情を異にしている点であります。たとえば、「教室」とか「教育」という言葉、この「教」という字を、教えるという言葉―和語―を表わす文字としてもこれを使っている、また「学問」、「学校」の「学」という字を「学ぶ」という言葉を表わす文字として使っていることです。これは非常にすばらしいことでありまして、実は私はこれについて一つの論文を書いております。大学において、これを数年前まで講義しておりましたが、これは一年かけてやっておりました。従って、その内容をここではとても紹介する余裕がございません。ただ、教育の「教」という字を「教える」というようにも用いることは、非常にすばらしいことである、ということを指摘するだけに止めたいと思います。